

# ICAN Monthly Report II



亡くなった家族に祈りを捧げる（レイテ島タナワン町）

## フィリピン中部を襲った災害から1年を迎えて。

＜災害の影響を受けた子どもたちの事業：事務局長からのコメント＞

7,000人以上の死者・行方不明者を出した台風被害から、11月8日で1年になります。私たちアイキャンが活動するレイテ島東部について、この1年を振り返ると、「大きな進展があった一方、復興はまだまだ先にある」というのが私の印象です。

これまでに、工場や商店の多くが再開し、多くの方が新たな家での生活を始めています。一方、資材の高騰や建設会社の人手不足等のために、学校の修復や再建のスピードは遅く、大勢の子どもたちが依然として雨風の入る仮設校舎で学んでいます。また、政府や自治体が責任を持つべき再定住地の確保は進む気配もなく、人々の持続的な生計の糧の確保も、緊急雇用を除いてほとんど進んでいません。世界からの関心が薄れ、多くのNGOも撤退する中、住民は取り残されています。

私たちは、最も被害の大きかったレイテ島東部において、この1年で食糧や生活必需品約6万人分、家屋約2万人分、学用品約4,000人分、仮設校舎25教室、コンクリート校舎の修復・建築35教室、緊急雇用述べ約15,000人分の提供を行ってきました。レイテ島の人々と歩み続けたこの1年、アイキャンは常に誠実に、1円も無駄にせず、効果的で質の高い事業を行うことができた、自信を持ってご報告できます。広大な16の村の事業地の至る所に掲げられた「Thank you ICAN」という住民からのメッセージは、その自信を裏付けるものと言えます。

しかし前述の通り、数々の課題が現在も残されています。私たちは、今後数ヶ月間、残り約100教室の建設・修復を進めるとともに、被災者に緊急雇用の機会を提供していきます。同時に、住民と話し合いながら、農業や地元産業の再興、参加型の防災計画の策定等に焦点を移し、これから2年かけて、災害に強い地域を作り上げます。悲劇を二度と繰り返さないためにも、甚大な被害から少しでも多くのことを学び、必ず災害に強い家、学校、そして地域を作っていきます。

マンスリーパートナーになっていただくことで、台風被災地レイテ島の復興を継続的に応援してください。

マンスリーパートナーは、月々1,000円から始められるご寄付の制度です。詳しくは、ホームページ(<http://www.ican.or.jp/>)をご覧ください。メール([info@ican.or.jp](mailto:info@ican.or.jp))、またはお電話(052-253-7299)にて、ICAN日本事務局までお問い合わせください。

認定NPO法人アジア日本相互交流センター・ICAN（愛知県名古屋市中区大須3-5-4 矢場町パークビル9階）  
フェイスブックを通じて随時、事業地の進捗報告をお届けしています。 <https://www.facebook.com/ICAN.NGO>



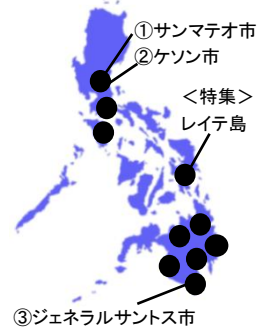
ICAN 事務局長

井川 定一（いかわさだかず）

～プロフィール～

1979年生まれ。フィリピン大学修士課程を経て、ICAN マニラ事務所職員。2007年外務省NGO専門調査員を経て、2008年より現職。

## Project Site



※●は ICAN 活動地  
※番号は裏面に対応

## ① 路上の子どもたち(サンマテオ)



### 僕らが描く「理想の施設」

路上の子どもたちの保護施設「子どもの家」の土地を囲う塀が、今月完成しました。また、路上の子ども18人が「理想の施設」を描く活動を行いました。その絵には、診療所や遊具等が描かれています。建築が進むにつれ、より具体的な提案が子どもたちから出てくるようになりました。(10月18日)

## ② ごみ処分場周辺の子どものたち(ケソン)



### 遅れは皆で取り戻そう

フェアトレード生産者団体SPNPの月次会議で、ティディベア制作の遅れが議題となりました。遅れを生じさせた頭部制作担当者は、夫の失業等家庭の問題で作業に専念できなかったことを告白。ネリヤさん(64歳)は、「遅れは皆で取り戻そう」と呼びかけ、頭部制作を手伝うことを決めました。(10月20日)

## ③ 先住民の子どもたち(ジェネラルサントス)



### 仲間のサポートで習得

地域保健員16名が、3日間をかけて4地域の診療活動を行いました。新人のデヒーナさん(28歳)は、手動式血圧計での数値判断がうまくできず、毎日活動後に他の保健員と復習をしました。3日目にはコツをつかむことができ、「皆のお陰で習得できた」と感謝していました。(10月18～20日)

## 書き損じハガキ回収/MYアイキャン事業

10月10日/名古屋

### 3年間で5,450枚!

名古屋中学校の1年生が、文化祭で書き損じハガキを集めてくれました。各学級から集まった有志約30名は、文化祭前から街頭や校内で呼びかけ、声がかかるほど頑張った生徒には学校から「敢闘賞」が贈られたそうです。同校ではこの活動が3年間継続されており、頂いたハガキは累計5,450枚になりました。



## グローバルフェスタ/フェアトレード事業

10月5～6日/東京

### 元ツアー参加者の力が集結

国内最大級の国際協力イベント「グローバルフェスタ」において、フィリピン料理のスープやフェアトレード商品を販売しました。運営メンバーは、過去にスタディツアーに参加した関東のボランティア11名。参加時期は違っても、ツアーという共通点ですぐに打ち解け、チームワークよく運営してくれました。



## 今月のTopic



### より質の高い活動を目指して「人道援助ワークショップ」研修に参加 10月27日～31日

10月27日～31日、ジャパンプラットフォームの主催で「人道援助ワークショップ」が開催され、アイキャンからは、井川と福田の2名が参加しました。研修では、アカウントビリティやセキュリティ、現金給付型プログラム等の緊急救援活動において必要不可欠なテーマを深く掘り下げました。今後レイテ島での活動の評価を行う際に、これらの視点で評価を行うことで、より活動の質を高めていく予定です。また、今回構築された中国、韓国、台湾等からの参加者とのネットワークをもとに、アジア各地のNGOとつながり、今後の組織運営に活かしていきます。

## 今月のICAN 名人

☺ 梶浦さん、想いのこもったメッセージをありがとうございました!

### マンスリーパートナー 梶浦義嗣さん

### 「ツアーでの感情を、その時だけで終わりにしたくない」

インタビュー:10月30日

転職を考えていた時、誰かの役に立つことをしたいと思い、NGOに興味を持つようになりました。インターネットでNGOの相談窓口を探していてアイキャンを知り、名古屋にある事務所を訪れました。実は別の所にも相談に行ったのですが、そこでもアイキャンを紹介されて運命を感じました。

そして今年の8月、スタディツアーに参加しました。その時、「もっと英語が話せたら自分の言葉で子どもたちとコミュニケーションが取れるのに」と思ったことがきっかけで、帰国直後から、日本事務局で行われているチャリティ語学教室「スマイルチケット」に毎週通っています。スタディツアーで聞き取ったことに対して、「その時の感情で終わりにしたくない」という気持ちから、授業の前に早めに来たり、授業後に残ったりして、事務所でのボランティアも積極的にするようになりました。

マンスリーパートナーやスマイルチケット、ボランティアを通して、場所が違ってもフィリピンの子どもたちと繋がっているということを感じます。子どもたちには、僕たちが今も覚えていて、応援しているということをお忘れなでほしいと思います。

